

2019年第1回IEEE Japan Council 理事会議事録

日 時：2019年4月10日(水) 14:00～17:30

場 所：ガーデンエアタワー28階プレゼンテーションルーム A

出席者：尾上 Chair、佐波 Vice Chair、滝嶋 Secretary、羽渕 Treasurer、
大鐘、山田(博)(代理)、加藤(景)、徳田、宇佐見、野田、植村(代理)、穂積、
杉江(俊)、梅田、黒田(代理)、大久保、谷口、福田(英)、梶川(嘉)、桑原、
山田(武)、津田、杉江(利)、眞田、白川、重松、栗本、竹村、青山、福田(敏)、南、
西原、高村、矢野、鈴木 (敬称略、順不同)

オブザーバ：百武、梶川(明)

事務局：加藤(麻)、木曾 幹事会社：望月、吉原

議題：

- | | |
|-----------------------------------|-----------|
| 1. 前回理事会議事録の確認 (審議) | 資料 (1) |
| 2. 2019年 Japan Council 理事会構成 (報告) | 資料 (2) |
| 3. 2018年決算報告・監査報告 | 資料 (3) |
| 4. 2019年活動計画および2019年予算 (報告) | 資料 (4) |
| 5. 2019年中間会計報告 | 資料 (5) |
| 6. 常設委員会 前回理事会以降の活動報告 | |
| 6-1 Chapter Operations Committee | 資料 (6-1) |
| 6-2 Student Activities Committee | 資料 (6-2) |
| 6-3 Awards Committee | 資料 (6-3) |
| 6-4 Industry Promotion Committee | 資料 (6-4) |
| 7. Ad-Hoc 委員会 前回理事会以降の活動報告 | |
| 7-1 Long Range Strategy Committee | 資料 (7-1) |
| 7-2 History Committee | 資料 (7-2) |
| 8. Affinity Group 前回理事会以降の活動報告 | |
| 8-1 Women in Engineering | 資料 (8-1) |
| 9. Coordinator 前回理事会以降の活動報告 | |
| 9-1 MD | 資料 (9-1) |
| 9-2 YP | 資料 (9-2) |
| 9-3 LMAG | 資料 (9-3) |
| 10. 各支部 2019年活動計画および前回理事会以降の活動報告 | |
| 10-1 札幌支部 | 資料 (10-1) |
| 10-2 仙台支部 | 資料 (10-2) |
| 10-3 信越支部 | 資料 (10-3) |

10-4 東京支部	資料 (10-4)
10-5 名古屋支部	資料 (10-5)
10-6 関西支部	資料 (10-6)
10-7 四国支部	資料 (10-7)
10-8 広島支部	資料 (10-8)
10-9 福岡支部	資料 (10-9)
11. その他	
11-1 TENCON2020 について	資料 (11-1)
11-2 国内学会からの協賛依頼について	資料 (11-2)
11-3 MGAARC 活動のトピックス	資料 (11-3)
11-4 R10 Meeting 2019 参加報告	資料 (11-4)
11-5 運営用情報サーバについて	資料 (11-5)
[参考] 支部別会員数/支部別 Society 会員数の推移	
[参考] Region 10 からのメール連絡一覧	
[パンフレット] IEEE Region 10 Industry Forum in ISCAS 2019	
[第一回 JC 理事会 JCWIE 報告書 別添資料]	

議事：

0. ご挨拶

開会の挨拶が述べられた。

1. 前回理事会議事録の確認【審議 ⇒ 承認】 資料（1）

前回理事会(2018年12月)議事録の説明があり異議なく承認された。

2. 2019年 Japan Council 理事会構成（報告） 資料（2）

2019年構成メンバーが紹介された。

3. 2018年決算報告・監査報告 資料（3）

決算、監査報告があった。リザーブの何%まで使えるのか、本部では明確に決まっているが Region や Section でも明確に決まっているのか、またリザーブの状況を IEEE 本部が把握しているのかなどの質問があった。毎年 Council/Section の決算報告を IEEE 本部に提出しており、財務状況は本部も把握していること、Region 10 Director と連絡を取りながら、今後リザーブの管理について確認していくことが述べられた。引き続き Section 支援費を有効活用するよう依頼があった。

4. 2019年 活動計画および 2019年予算（報告） 資料（4）

活動計画および予算の説明があった。予算に対し余地があるため、Section 支援費の活用について積極的な募集提案の依頼があった。

来年の Sections Congress の準備状況について質問があった。会期は8月21日から23日まで、会場はオタワ、Section の primary delegate 各1名の旅費支援があること、Council については費用負担を含め Region10 でどうカバーするかなど R10 コーディネータと連絡を取り決定していくことなど回答があった。

関連して、IEEE Collaboratec Section Chair のグループがあり、そこにファイルがあることが紹介された。勉強にもなるため JC として人を派遣する可能性も考慮すべきとの提言が、今から誰を派遣するか検討することが重要との意見が、Sections Congress は3年に1回の IEEE のオリンピックのようなもので、参加・経験が重要との提言があった。次回理事会にて提出の中間会計も見ながら、各 Section から多くの人に参加頂けるよう来年度に向けて検討したいと発言があった。

5. 2019年中間会計報告 資料（5）

資料の説明があった。会計精度を上げたいため 2019年は年度途中の会計集約導入を計画していると発言があった。6月、9月に状況を把握、場合によって予算修正することも想定している。各委員会の皆様には報告の依頼をするので情報共有に協力して欲しいとの要請

があった。

6. 常設委員会 前回理事会以降の活動報告

6-1 Chapter Operations Committee

資料 (6-1)

2018 年活動報告ならびに 2019 年活動計画の説明があった。重要課題として次の 4 点述べられた。

- ① 未執行案件の対応：予算が計画的に執行できていない懸念については、6 月と 9 月に中間決算を実施、状況を把握し、Chapter 支援費全体予算の見直しをする予定である。
- ② Chapter 支援費の規模・使途：上限は維持するが、執行額が少ない場合、Chapter 会員数、Activity 規模・実績に応じて見直し公平感を持たせる。また、複数 Chapter から旅費での自家用車・レンタカー適用を相談されている。現行規程に明記がない。公共交通機関より安価ならば認めてよいと考える。特に展示物の運搬にはレンタカーが安価となる場合がある。皆様から意見を伺いたい。
- ③ Award：受賞者数は応募論文数の 10%以下としている。採択率が低い場合（例 30%以下）には特例として受賞者割合が 10%以上となることを認めている。一方で安易な適用の恐れもあり、今後はエビデンスを求める。採択率を発表しない学会などエビデンスがない場合があるが、採択率が低い学会は事前にリストアップし、応募者数の 10%を超える Award 受賞者数を認めることを考えている。皆様から意見を伺いたい。
- ④ COC 運用の Section 移行促進：2017 年に Chapter 活動が Section 配下に移行したが、予算は依然 JC 配下である（昨年は 101 件の支援費を JC で実施）。Section の自立性を高めるため、Section 配分がよいとの意見もある。一方配分は小規模 Section では難しい場合もあるため、試行的に東京や関西など大規模 Section から予算の配分を検討する。Section 支援費では Joint Section や Japan West Section 等 Section 連携活動があり、同様に予算配分することもありえる。皆様から意見を伺いたい。

課題④に関して、Section 配下移行では、JC は Section への配分方法を考えなければならず、この点を考えオールジャパンで、Section 支援と同様の運営がよいという結論だったが、あえて変えることになるのかとの質問があった。これまでの議論の経緯は知っていること、Section の Activity による比率や、上限を設定して Activity 分を加えることで、Section 自立性を高めた方がよいという議論もあるため、一年ぐらい関係者の意見を聞きながら検討していきたいと回答があった。

課題②に関して、自家用車・レンタカーは運搬費用として計上するのがよい、駐車場代も明記しては、安全性考え日本では認めないという合意だったので展示物がある場合のみ認めるべき、IEEE の活動と会社の活動との間で線引きができない状況で労災等の問題が生じ、事故の場合の自己責任など各所属との確認も必要、事故の場合 JC の責任有無を明確にして欲しい、などの意見・提言があった。これに対し、展示品の運搬など特殊な場合に認めてよいが、有事の場合の責任が JC に無いことを担保する必要がある等の発言があった。各意見

を踏まえて条件や必要事項を決め、改めて共有し、段階的にでも進めるように検討いただきたいと集約された。また、Section への Chapter 支援費配分についても同様に検討いただく旨集約された。

6-2 Student Activities Committee

資料 (6-2)

活動計画の前回理事会からの修正部分について説明があった。

参加者が SB に戻り活動に効果が出ているかと懸念が示された。JC SAC から旅費支援し SBLTW に参加してもらい、そこで各 SB に報告や発表を行わせ、SB に派遣効果を波及させるなど効果を作りたいと回答された。

資料①~⑧の項目と支出の対応やスケジュールも分かるように、また支部と JC など収入が複数経路ある場合には分けて記載いただきたい、と依頼があった。

6-3 Awards Committee

資料 (6-3)

資料の説明があった。

会議費予算は変更ないか確認あり、変更ないと回答された。

日本人の新規フェローが減少していること、一方で中国では増えていること、日本にもフェロー候補者が多いもののシニアにもなっていない場合が多いこと、フェロー昇格活動の一層の奨励など JC もバックアップして欲しいこと、などが述べられた。これに対して、各機関の所長レベルであればフェロー、部長レベルであればシニアといった格があり、各機関にはプロモートをお願いしたいこと、業績と合わせて、最近では論文の被引用数なども重要であることが説明された。

6-4 Industry Promotion Committee

資料 (6-4)

資料の説明があった。

Industry Engagement について現在本部にて Affinity グループ設立による活動推進への動きがあり、今後本部 Industry Committee にて議論が進むであろうことが紹介された。資料中の「IEEE が旧態依然とした Society で構成」について、GAFA の若い社員は IEEE の会員ではないらしいこと、Society 構造が依然縦割りなこと、こうした状況に横串を通す活動がまだ十分でないこと、などの懸念が述べられた。IEEE Xplore へアクセスした「フォーミュラメンバー」は昨年約 500 万人おり、この人々を基本的な会員とみなす考え方を IEEE 現会長が言っていること、このうち Xplore を見るだけの人とその他の人をどう区別し、会費をどのように設定するのか等の議論があること、Society をまたぐ組織として Council でも対応しきれないためコミュニティをつくっているが、あまり目立つ活動になっていないこと、などが補足説明された。現在決定的なアイデアはないため、皆様にもお考え頂きたいと要請された。

7. Ad-Hoc 委員会 前回理事会以降の活動報告

7-1 Long Range Strategy Committee

資料 (7-1)

第 1 回会合の報告があった。将来の方向性について、2040 年には日本の労働者人口が 5,000 万人、一方高齢者人口が 4,000 万人と言われており、このような状況では論文や技術だけのコミュニティでなく、非技術者にもアピールするような新しい枠組みの中で会員を獲得していくことも真剣に考えなければならぬと議論があった。今後も継続議論する。

7-2 History Committee

資料 (7-2)

資料の説明があった。R10 からは日本だけかと質問があり、オーストラリアからも 1 件と回答された。青色ダイオードは候補かと質問があり、事情によりまだ申請されていないと回答があった。プラークの費用負担について、IEEE 規定では (1 枚目は) IEEE 負担とすると記載があるが実態として受賞機関の負担になっていることに対し見直し要請意見がある旨紹介された。各 Section で受賞時に Section 支援費の申請も可能と考えられる。一方で、受賞企業は自費負担で複数枚の調達を行うことも多いなど、実質的に問題にならないという意見も出された。本件については、今後、JC HC 内にて各支部 HC メンバーを交えた議論を行い、対応について調整することとなった。

<休憩 10 分>

議事再開前に周知があった。理事会連絡手段として、各支部 Chair 等を含む理事会メンバーを対象とした Mailing List に加えて、各支部 Secretary を対象とした Mailing List を作成し、今後周知等の連絡は両方に情報展開することが報告された。合わせて、次回意向の理事会は第 1 回と同じ会場での開催が予定されており、運営全般について、ご意見やご要望があれば事務局まで連絡を頂きたい旨、連絡があった。

また、パンフレット「IEEE Region 10 Industry Forum in ISCAS 2019」の紹介があった。

8. Affinity Group 前回理事会以降の活動報告

8-1 Women in Engineering

資料 (8-1)

2019 年は WIE2019 (11 月予定)、国内 SB/YP/LMAG 等との共催イベント、JC WIE の支部傘下移行を 3 つの大きな柱と考えていることが述べられた。

WIE2019 に一番注力するのか、グローバルな関係構築のためにも R10/本部 IEEE と活動を行う意識はあるかと質問があった。WIE2019 に注力するため予算を集中していること、一方で長期的にはグローバル対応を重視しており、そのためのイベント参加を考えているが、予算を当初より減らしたのは、米国の ILC には多くの人が行かないと見込んでいること、また今年に限っては支部移行のため JC と支部の連携など、国内体制の強化に注力したいことなどによる旨、回答された。

WIE 支部移行の構成面と手続き面について補足説明があった。構成面では Joint を考え

る必要があり、まず WIE で案を検討頂いていること、それを関連支部と意見交換して頂き、どのような構成とするか決めていくこと、手続き面では新規設立の petition がオンライン化したこと、最近 WIE を設立した仙台支部や準備中の名古屋支部などと経験を共有しながらスケジュールを具体化していきたいこと、などが述べられた。

オンライン化で手続きが迅速化したこと、事前に支部から支部 WIE 立上げの承認を得ておくと以降の手続きは円滑に進むこと、必ずしも委員を運営するメンバーが署名をすることは限らず、支部の任意のメンバーに承認依頼があること、既存の支部 WIE を他支部との Joint WIE に変更することも可能であること、などが紹介された。

名古屋支部では支部 WIE 設立記念イベントを企画しており、アピールの機会として期待されるので、他の支部で WIE が設立される場合にも地元でアピールできるとよい。今後を担う人たちの初動や気づきにつながるとの意見が述べられた。

9. Coordinator 前回理事会以降の活動報告

9-1 MD

資料 (9-1)

広島 Section の伊藤先生は山田先生に、福岡 Section の大竹先生は柳井先生にそれぞれ交代、Past Coordinator の橋本先生がメンバーに加わったことが報告された。新任メンバーを対象に、Member benefits の確認、MD Manual 紹介や、支部の状況(数値データ)などを共有する機会を持つことを奨励する。

他 Committee と連携し活発に活動を進めてもらうよう依頼があった。

9-2 YP

資料 (9-2)

活動計画が紹介された。

予算総額が前回理事会から増えているが、YP Coordinator 費は変更ないため、差額をどこから捻出するのかとの質問があった。関連して、項目単位では前回理事会との違いは「IPC 経由での企業内若手への宣伝交通費」と「福岡または仙台 YP AG の設立協力費」が追加、これにともない予算が追加されている点であることが示された。続けて、昨年末時点での計上に対し、すでにずれがあることが述べられた。会議後の個別議論にて、差額の調達方法について YP にて検討を行い、増額の必要がある場合には、JC 理事会に諮るなど対応を行うこととなった。

Japan SYWL workshop に関して計画はあるかと質問があった。これに対して、未だ無いとの回答があった。Japan SYWL workshop については仙台支部の YP 設立と連動して準備を進めることになること、YP はこれまでも SYWL Workshop にて中心的役割を担ってきたことなどから、仙台支部や SAC、WIE、LMAG と連携して企画の検討を行ってほしいことが述べられた。

9-3 LMAG

資料 (9-3)

資料の説明があった。

Region 10 の支援はレポート提出による後払いであり、まず各 Section でサポートし、(10月初めごろにレポート提出の案内がある) レポートを提出頂きたいこと、など補足説明された。

会員累積年数によらず一定の年齢であれば参加できる AG に変えようという意見もあり、IEEE Life Member Committee で議論中と報告された。

IEEE University を立ち上げるので、ライフメンバーやメンターが参加できるよう、カリキュラムを作成して頂きたいとの提案募集があった。

10. 各支部 2019 年活動計画および前回理事会以降の活動報告

10-1 札幌支部

資料 (10-1)

資料の説明があった。昨年8月に函館開催の不揮発メモリの国際会議にて Financial Co-Sponsor を引き受けたが、大規模かつ負担率50%とリスクが高く懸念があった。該当する Chapter が無く、開催地の点から札幌支部に依頼があった。これまで収支が安定した会議とのことで引き受け、結果として無事黒字になったため、黒字分を関係者へ還元する方法を検討している。一方こうした場合、支部ではなく JC でリスクを引き受けて頂き、黒字の場合には還元する対応が可能かお尋ねしたい。あれば今後も余裕を持ってこうした事例を引き受けられる。

対応への感謝と経緯の説明があった。Section が JC と共同で受ける場合には Region 10 の承諾が必要で時間を要する。一方、Section 単体ならば内部処理で迅速に対応可能。今回、会期が迫り主催者も困っていたため、札幌支部に依頼することとなった。時間があれば、JC が受けるスキームも可能と考える。

Section と JC の共同ではなく Section 主体であるが、万一の場合 JC から補填し、その代わり黒字分の一部を還元することができれば、ありがたいと述べられた。

こうした場合は、最初に JC 理事会あるいは役員との間で共有・認識しておけば、その後中止など問題が発生した場合にも対応が取れる、JC 予算でこうしたことを積極的に支援できればと考える、正式な FCS 以外の形態での支援、Section 支援費での支援、赤字時に継続・段階的に解消する支援などいくつか方法が JC で取れると考えると発言があった。

JC や札幌支部が FCS になる必然性はあったか、やむなく引き受けた印象があると質問があった。IEEE に担当組織が無く、誰かがローカルで支援しないと本部予算を獲得できない状況だった。時間も限られ、会場が函館だったため、今回は札幌支部にリスクをとって頂いた。ご了承頂きたいと回答があった。

香港で会議を開催するとあがりの数%を取られるが、その分、サポートをしてくれる、との情報提供があった。

一般化は難しいと思うが、このような事例については、早期に相談いただきつつ、引き続

き対応方法について理事会にて議論したいと集約があった。

また 2018 年 R10 Best Membership Retention Small Section Award 受賞が紹介された。

10-2 仙台支部

資料 (10-2)

資料の説明があった。MAW のイベントと位置付けるか、YP イベントとして本部から予算を獲得するか、後者の場合別イベントに位置付けると申請通過しやすい、予算と実施面を明確にしてもらえば、Region 10 や JC の YP として支援できる、と発言があった。昨年理事会で Japan SYWL を議論し Section 規模に応じて 3 パターンに整理したのでどれにあたるか、支部活性化が必要と考える、と述べられた。JC YP 等とも連携の上、企画案の検討を進めていくこととなった。

10-3 信越支部

資料 (10-3)

資料の説明があった。

10-4 東京支部

資料 (10-4)

資料の説明があった。

10-5 名古屋支部

資料 (10-5)

資料の説明があった。長年支部監事を担当し活動を支援頂いている日本ガイシとトヨタ中央研究所企業に対する Supporting Friend of IEEE MGA Award 申請を行ったことが紹介された。

10-6 関西支部

資料 (10-6)

資料の説明があった。2019 年予算において JC からの Section 支援費を活性化のために有効活用する計画となっていることが紹介され、その効果への期待が述べられた。

10-7 四国支部

資料 (10-7)

資料の説明があった。2018 年 R10 Best Membership Growth Small Section Award 受賞の紹介と、次回理事会は松山開催なので準備等よろしくお願ひしたい旨の発言があった。

10-8 広島支部

資料 (10-8)

資料の説明があった。

10-9 福岡支部

資料 (10-9)

資料の説明があった。

11. その他

11-1 TENCEN2020 について

資料 (11-1)

日本開催に関し、JC 理事会で議論を経ずに R10 Annual Meeting で提案した経緯が報告された。前回理事会の 2018 年 12 月 4 日時点で提案を想定しなかったが、2020 年が日本で重要な年となることから急遽提出期限の 12 月 5 日に提案した。

2020 年 11 月 16 日から 19 日に大阪国際会議場にて開催。テーマは「Advancing Technologies for Sustainable Development Goals to Transform Our World」、General Co-Chair を白川先生と小山先生にお願いし了承を得た。

オールジャパン (9 Section+Council) 主催とすることを各 Section でご検討頂きたい。Financial は Japan Council が負担し、収入を各 section で分ける形を想定。体制は、白川先生、小山先生、尾上 Chair を中心としたコアチームとナショナルサポート Committee を組織し、そこへ各 Section から委員を選出頂き、宣伝活動や準備作業を分担したい。

各支部への要請はスポンサーシップであって、会議運営は含まれないかと質問があった。主な会議運営は依頼しない形を考えており、別途組織するナショナルサポート Committee のようなメインの実行委員会ではない場で Publicity や参加奨励、論文投稿、新しいセッション検討など、ローカル Section とのつなぎをお願いしたい、と回答された。別途、各支部対して、依頼状発行する予定である。

11-2 国内学会からの協賛依頼について

資料 (11-2)

映像情報メディア学会起業工学研究会設立 20 周年記念講演会への協賛依頼が説明された。

これは IEEE に経費がかからないのか、IEEE のロゴは使うことになるのかと質問があった。費用はかからない、IEEE のロゴは使わない予定であるが、映像情報メディア学会に確認すると回答があった。確認事項を明確にした上で、協賛することとすると集約があった。なお、JC 自体が協賛となるケースは近年あまりないが、特別なイベントについては JC として協賛することもありえることも確認された。

11-3 MGAARC 活動のトピックス

資料 (11-3)

資料の説明があった。

11-4 R10 Meeting 2019 参加報告

資料 (11-4)

資料の説明があった。インセンティブは、R10 ニュースレター等で周知しており、確認いただきたいことが補足された。Region 構成の見直し検討が行われていること、また IEEE University の紹介があったこと等も紹介された。Region の再構成はホットなトピックであり、Region 10 のウェブサイトには資料があるのでご覧頂き、もし改善コメントがあれば寄せて欲しいとの補足説明があった。

11-5 運営用情報サーバについて

資料（11-5）

情報共有促進のためJC関係の情報システム整備を進める方針が紹介された。事務局で活用してきた無償サービス「サイボウズLive」が有償移行するに伴い、非営利団体向け優待価格を申請し採択されたため、この機会にシステムを整える。

今後、理事会メンバーへのアカウント発行、過去の理事会資料・規程・ガイドライン等の共有化、カレンダー機能によるイベント等の実施状況や費用申請・報告書提出状況の確認を可能にする。さらには承認システムの導入可否についても検討を進めている。

なお現在JCさくらサーバのファイルが増え、自動バックアップ上限値に達しつつある。使用詳細は事務局でも把握できていないため、各支部やChapter等、情報発信やファイル交換で当該サーバを活用している場合には5月末までに知らせてほしい旨依頼があった。

最後に7月26日に松山での第2回理事会開催が周知された。

以上